

神社参道の曲折とその角度に関する研究
—東京都世田谷区内の神社を事例として—

○福田俊介 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：神社、境内、参道、景観変化、世田谷区

神社は神を祀る施設として全国に散在し、古来より、宗教的な儀式の場としてのみならず集落の中心的存在として大きな機能を果たしてきた。ところで、神社の参拝において、参道は重要な役割を担っているといえる。単に拝殿へ向かうための通路であるだけでなく、神社の神域性を高めるための演出や、参拝者に心理的高揚もしくは落ち着きを導くための優れたしつらえがなされている事がある。一方で、参道の曲折は参拝者から見た景観に変化を生み出すと同時に、本殿や祭神を直接見せない造りにしていると考えられるものの、一般的に入口に対し直角でないことは、経験的には理解されている。しかし、参道の曲折回数やその時の角度に着目された研究事例は、未だ見当たらないのが現状である。

そこで、本研究では世田谷区を対象として、神社の由緒や敷地の現況について事前に現地調査をし、情報を整理した上で、各参道の曲折回数とその時の角度が神社の属性とどのように関係しているのかの分析を試みた。

福島県相馬市の小学生を対象とした
「みちのく夏の冒険エコキャンプ」の企画・立案および実践

○栗田和弥 [東京農業大学] 伊藤亜美 [東京農業大学] 鈴木広子 [財団法人都市緑化機構]

小川陽一 [財団法人都市緑化機構] 川嶋 舟 [東京農業大学]

福島県相馬市の小学生を対象とした、夏休みにおける「みちのく夏の冒険エコキャンプ」の企画、プログラムの立案、そして実践を行った。2泊3日のキャンプ活動を2回に分けて募集し、8月に各々60名以上の参加者が集まった。キャンプは国営みちのく杜の湖畔公園（宮城県川崎町ほか）にて、プログラムの運営には管理者でもある財団法人公園緑地管理財団および東京農業大学の学生の協力を得て、園内の「みちのく公園自然共生園」他を利用して実施された。企画にあたっては、当初は復興・まちづくりも検討された。実際には、震災を受けた児童だけに限定せず市内全域から募集し、子ども同士の友人を増やし交流を広めること、キャンプ活動そのものが非日常体験であることから震災を思い起こさせることのないように配慮し、それでいて今後への思いを開き出すことができるように考慮した。その結果、参加者は全員、無事にキャンプを終え、プログラムならびにキャンプを楽しんだことが確認された。